



佐々町「生涯活躍のまち」の実現に向けて

2016年9月9日

MRI 株式会社三菱総合研究所

全国および長崎地域の人口動態

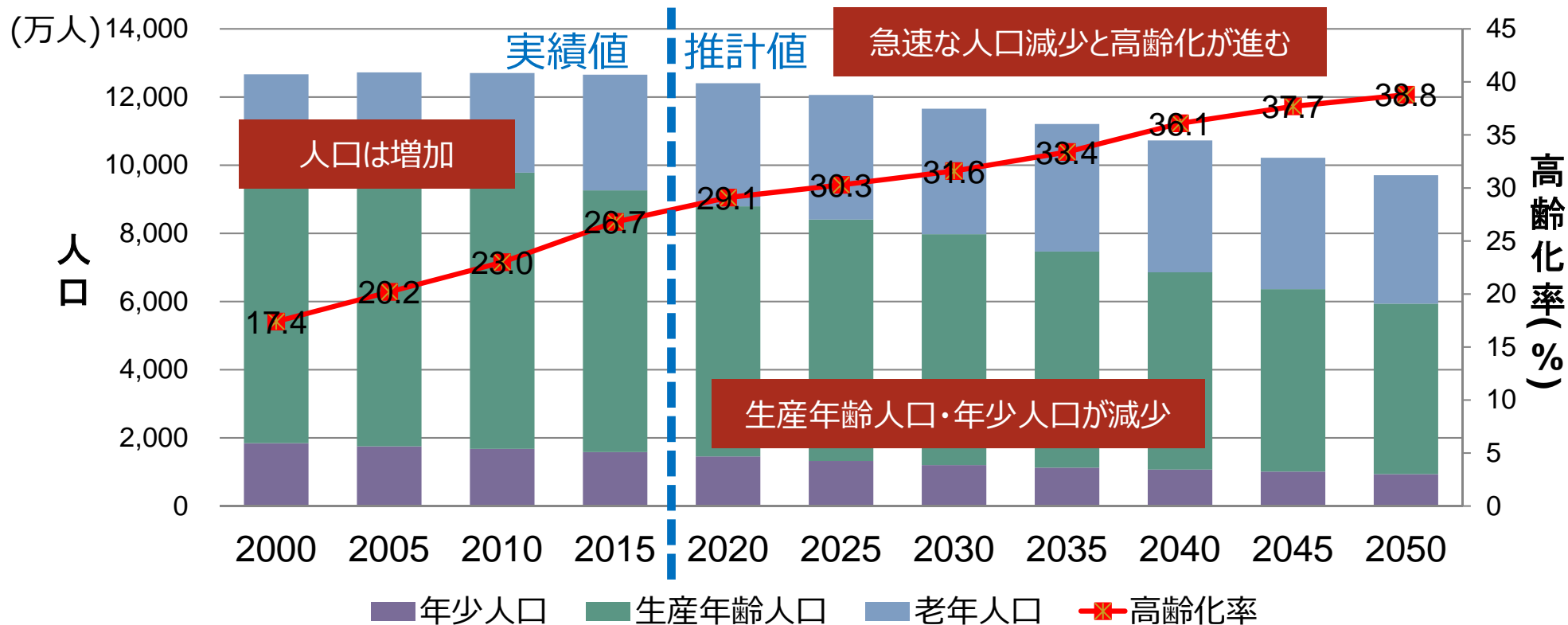
日本全体の人口動態

2015年国勢調査では、調査を開始して以来初の人口減少

2010年まで増加傾向であったが、2015年から人口減少に転じた(94万7千人減)。今後も人口減少が予測されており、2050年には1億人を下回る見込み。

止まらない少子化・高齢化

これまでよりも年少人口、生産年齢人口は減少し続け、老年人口が増加。2025年には高齢化率は30%を超える見込み。



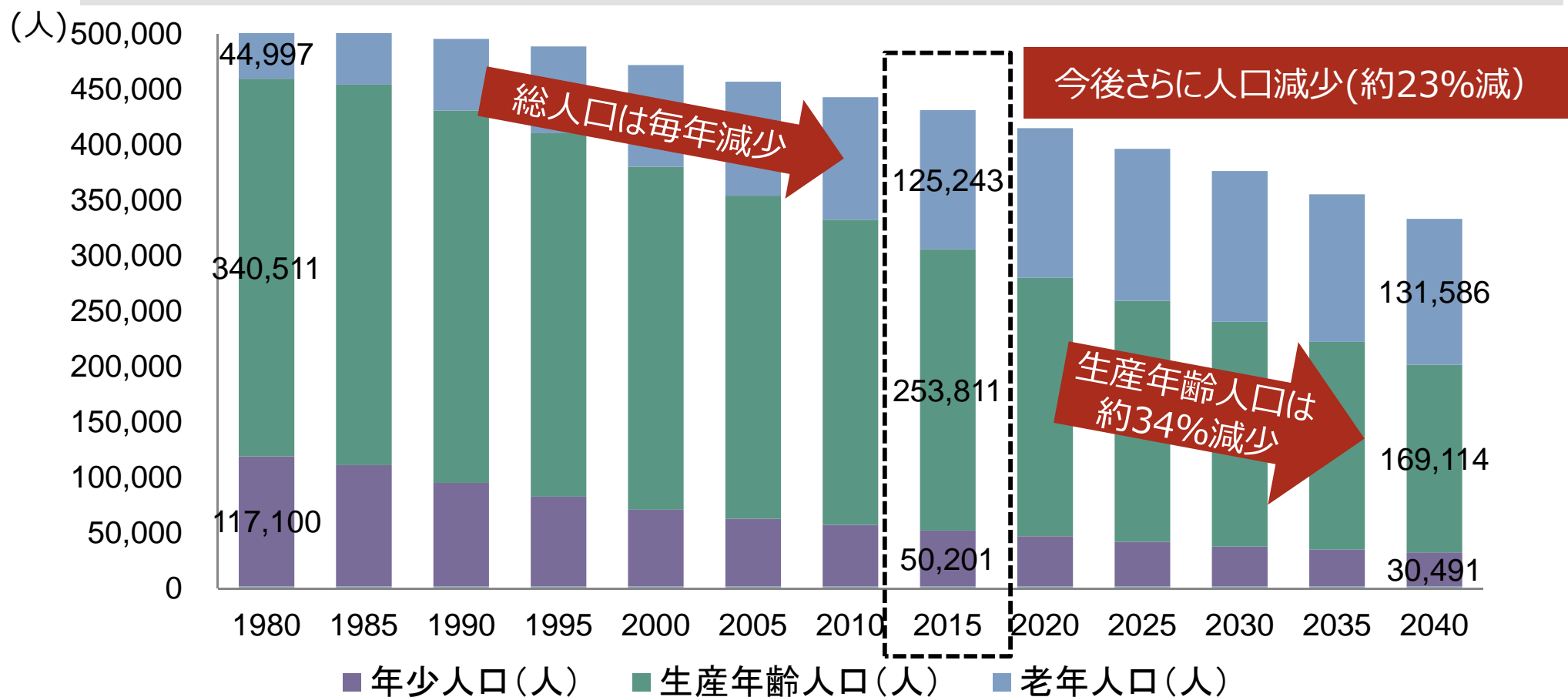
出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(全国) (平成24年1月推計)」、平成27年国勢調査をもとに作成

長崎市の人口動態

県庁所在地であるが、急速に人口が減少する。

長崎市はすでに減少している。今後、さらに人口減少が進む見込み。

2040年には2015年よりも、総人口は約23%、生産年齢人口は約34%減少。

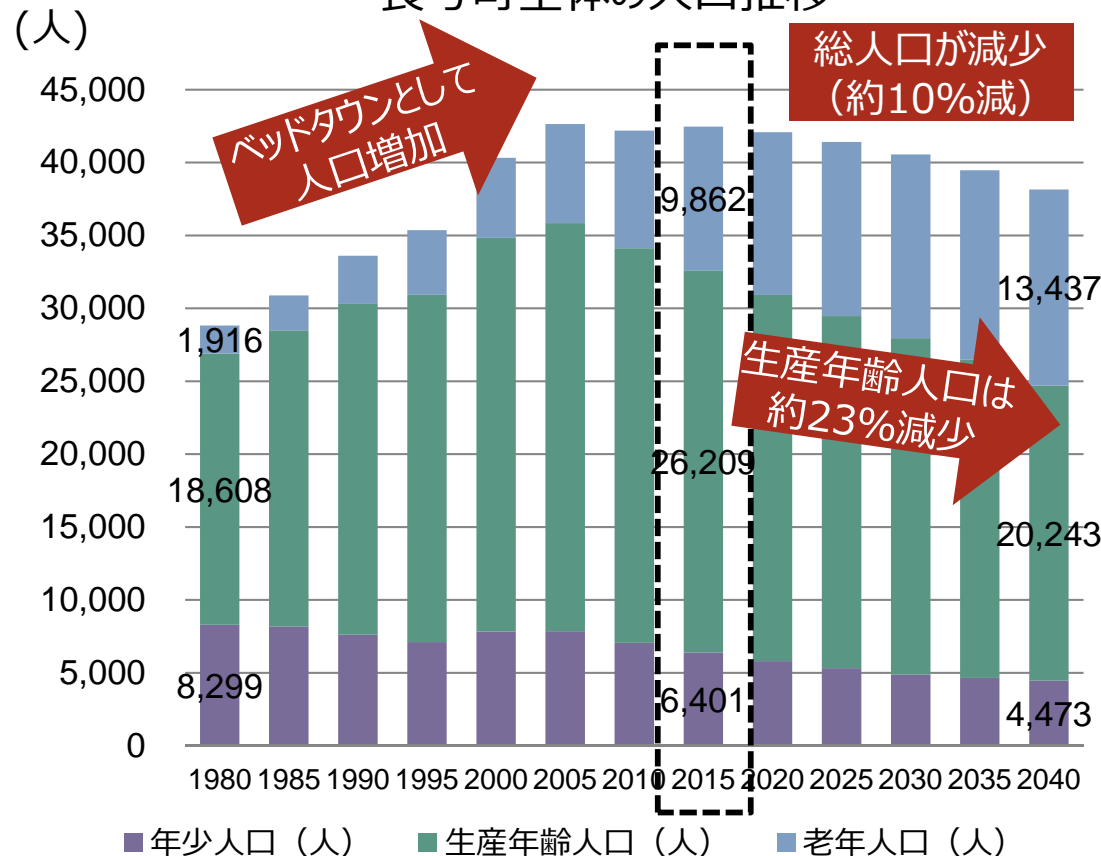


長与町（長崎市のベッドタウン）の人口動態

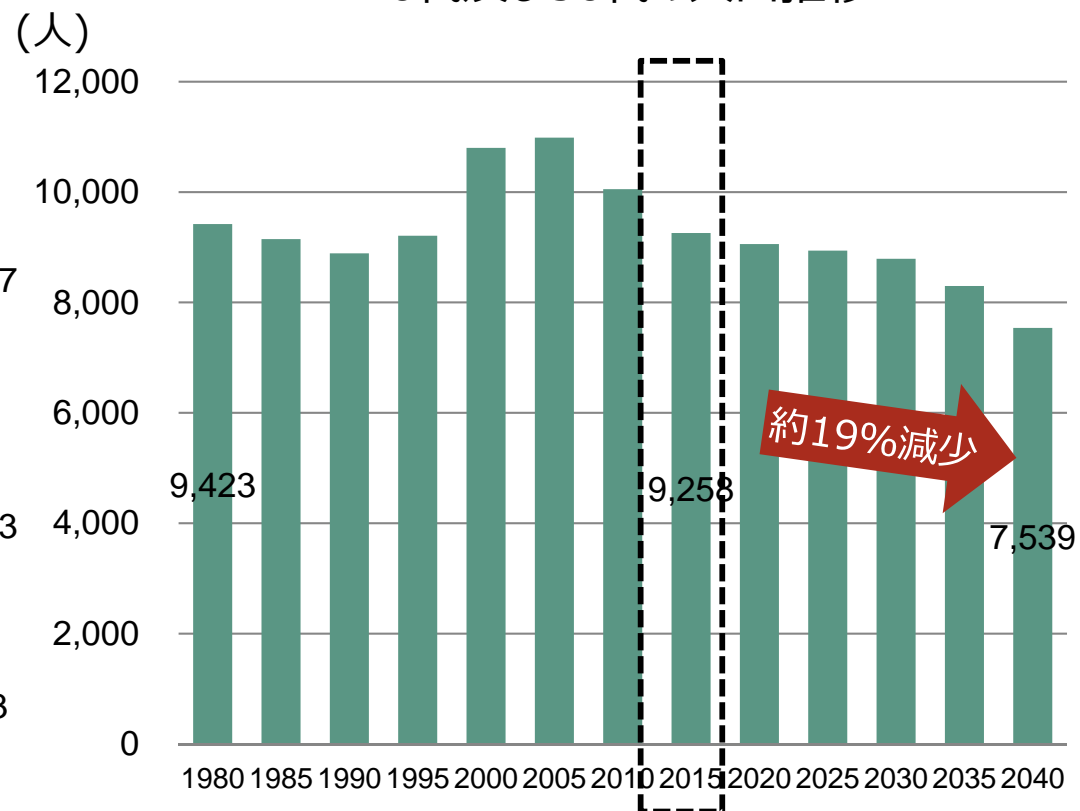
長崎市のベッドタウンでさえ、人口減少が進む

長与町は長崎市のベッドタウンの1つとして人口増加を続けてきたが、今後人口が減少する見込み。特に、20代・30代の人口減少が進んでおり、急速な人口減の要因となっている。2040年には2015年よりも総人口は約10%、生産年齢人口は約23%、20・30代の人口は約19%減少。

長与町全体の人口推移



20代及び30代の人口推移



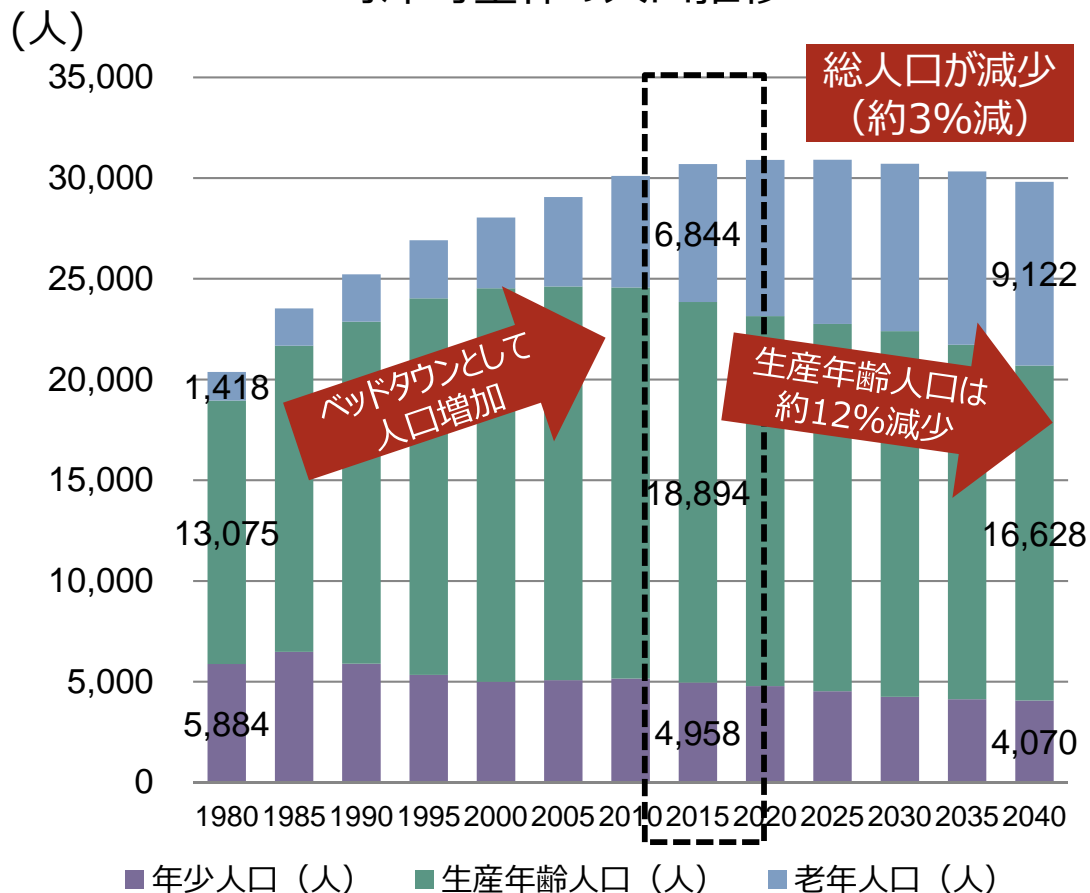
出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計)」をもとに作成

時津町（長崎市のベッドタウン）の人口動態

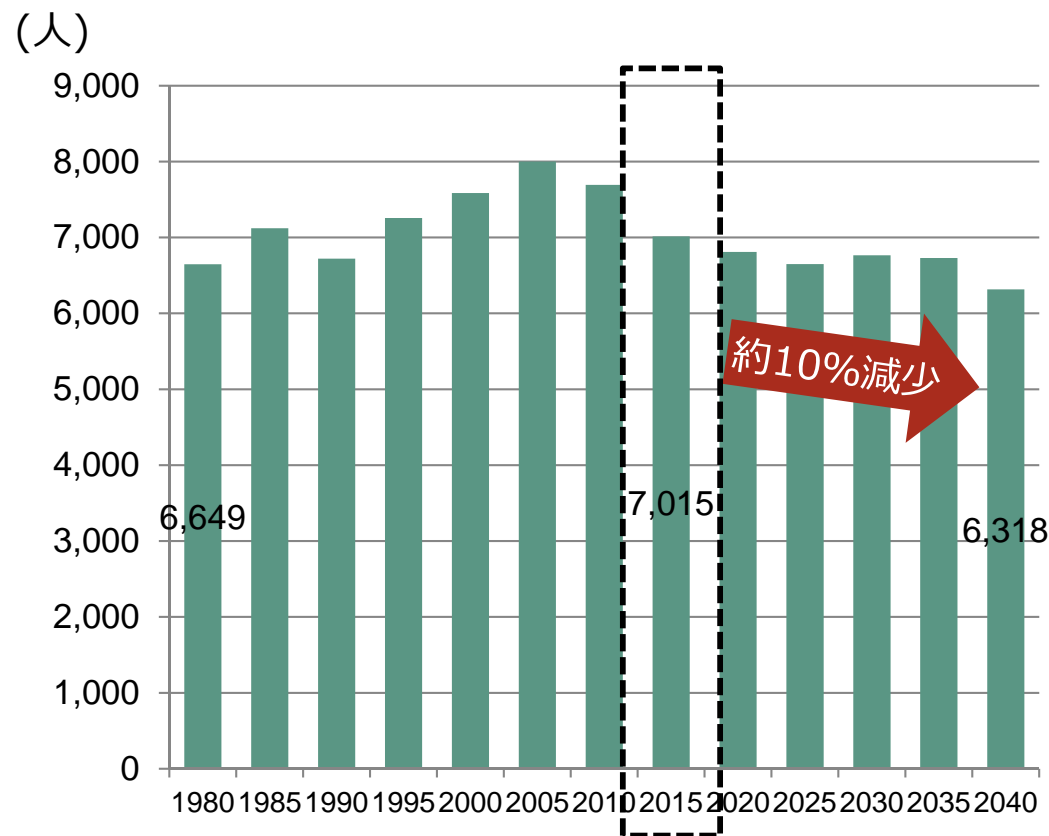
長崎市のベッドタウンでさえ、人口減少が進む

時津町も長崎市のベッドタウンの1つとして人口増加を続けてきたが、今後人口が減少する。2040年には2015年よりも総人口は約3%、生産年齢人口は約12%、20・30代の人口は、約10%減少。

時津町全体の人口推移



20代及び30代の人口推移



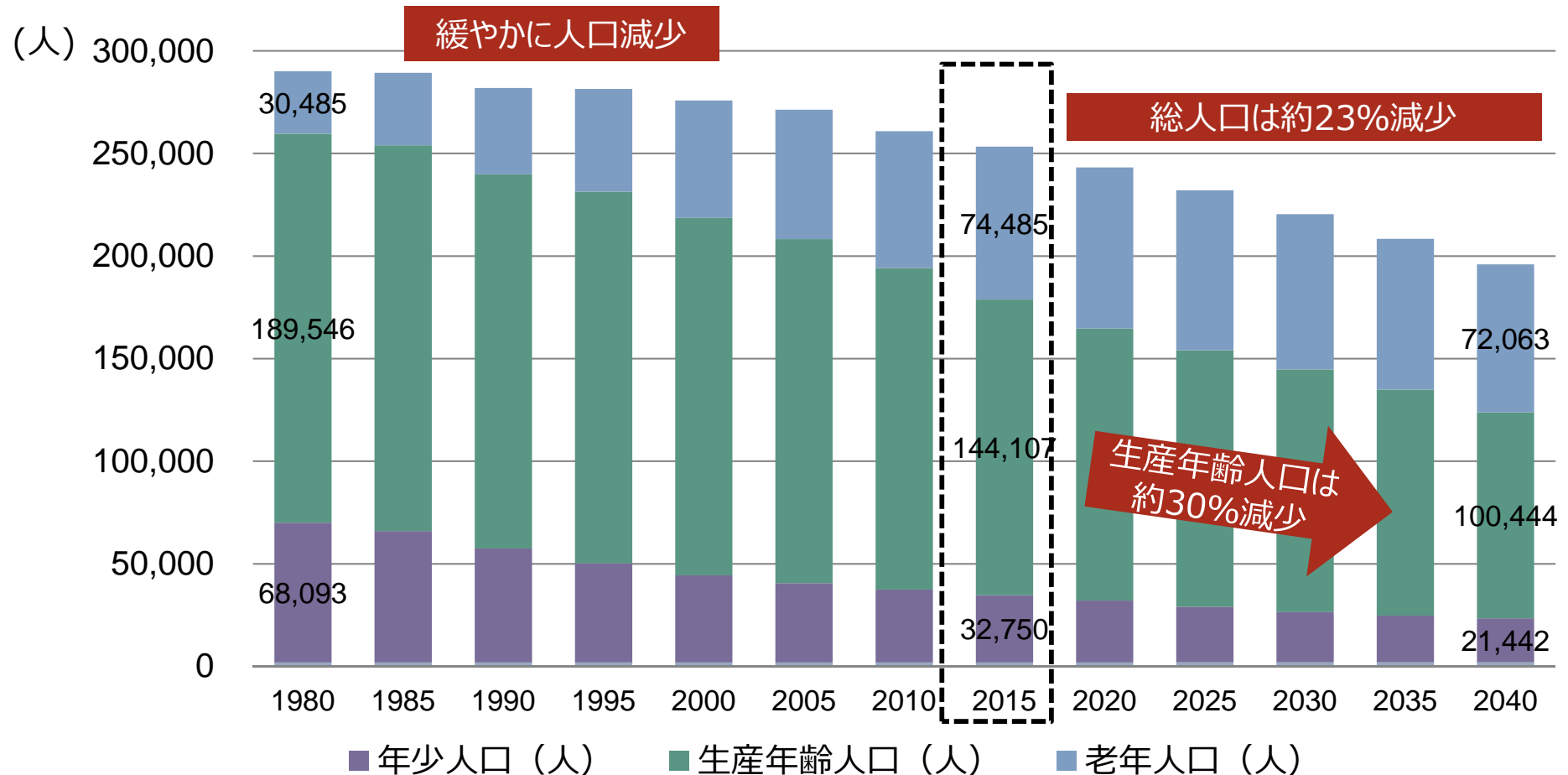
出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計)」をもとに作成

佐世保市の人口動向

佐世保市の人口は減少

長崎市と同様に、人口減少が進む。

2040年には2015年よりも、総人口は約23%、生産年齢人口は約30%減少。

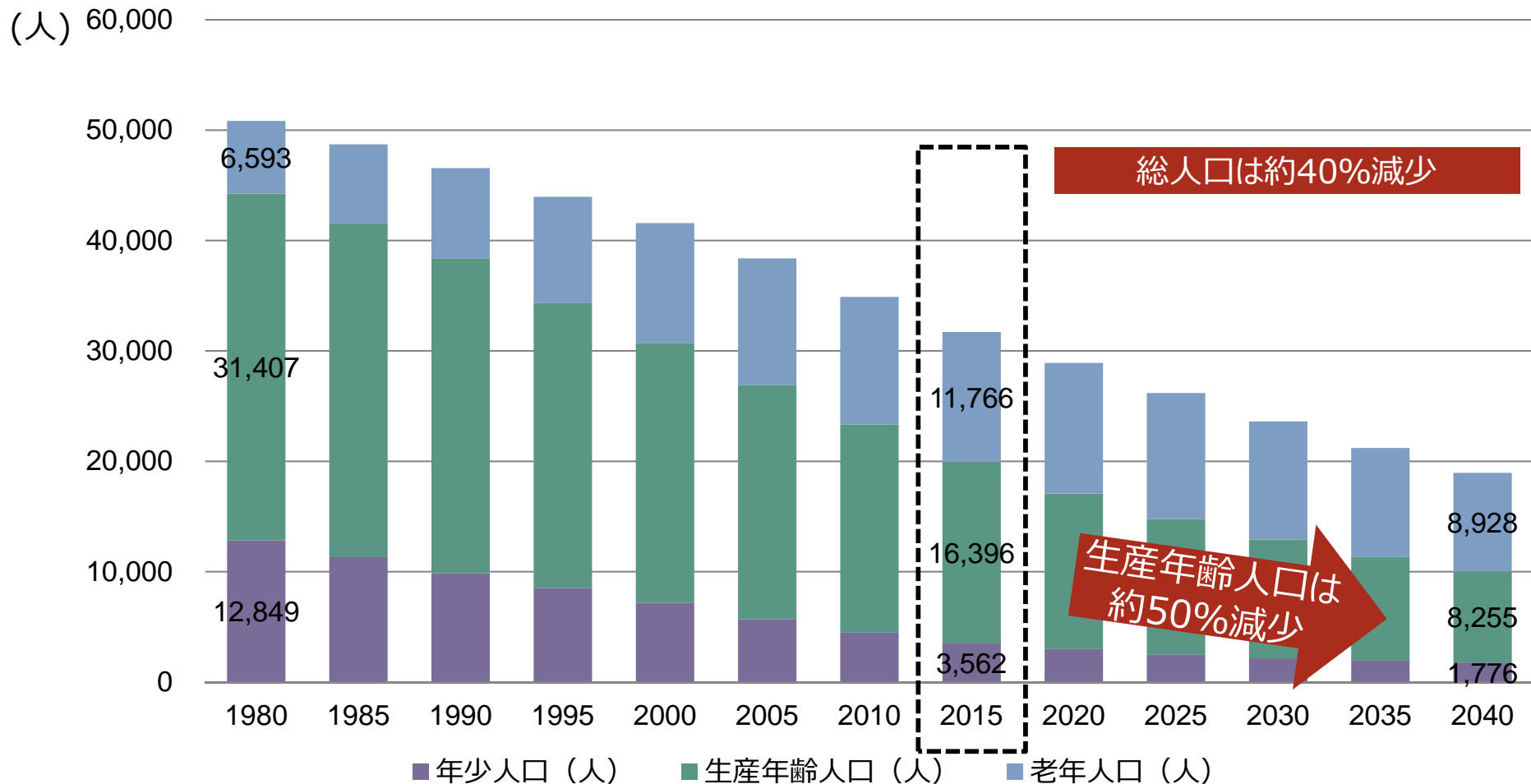


出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」をもとに作成

平戸市の人口動向

平戸市の人口も急速に減少し、生産年齢人口は半分以下に

毎年人口減少が進み、年少人口及び生産年齢人口が大きく減っていることがわかる。
2040年には2015年よりも、総人口は約40%、生産年齢人口は約50%減少。

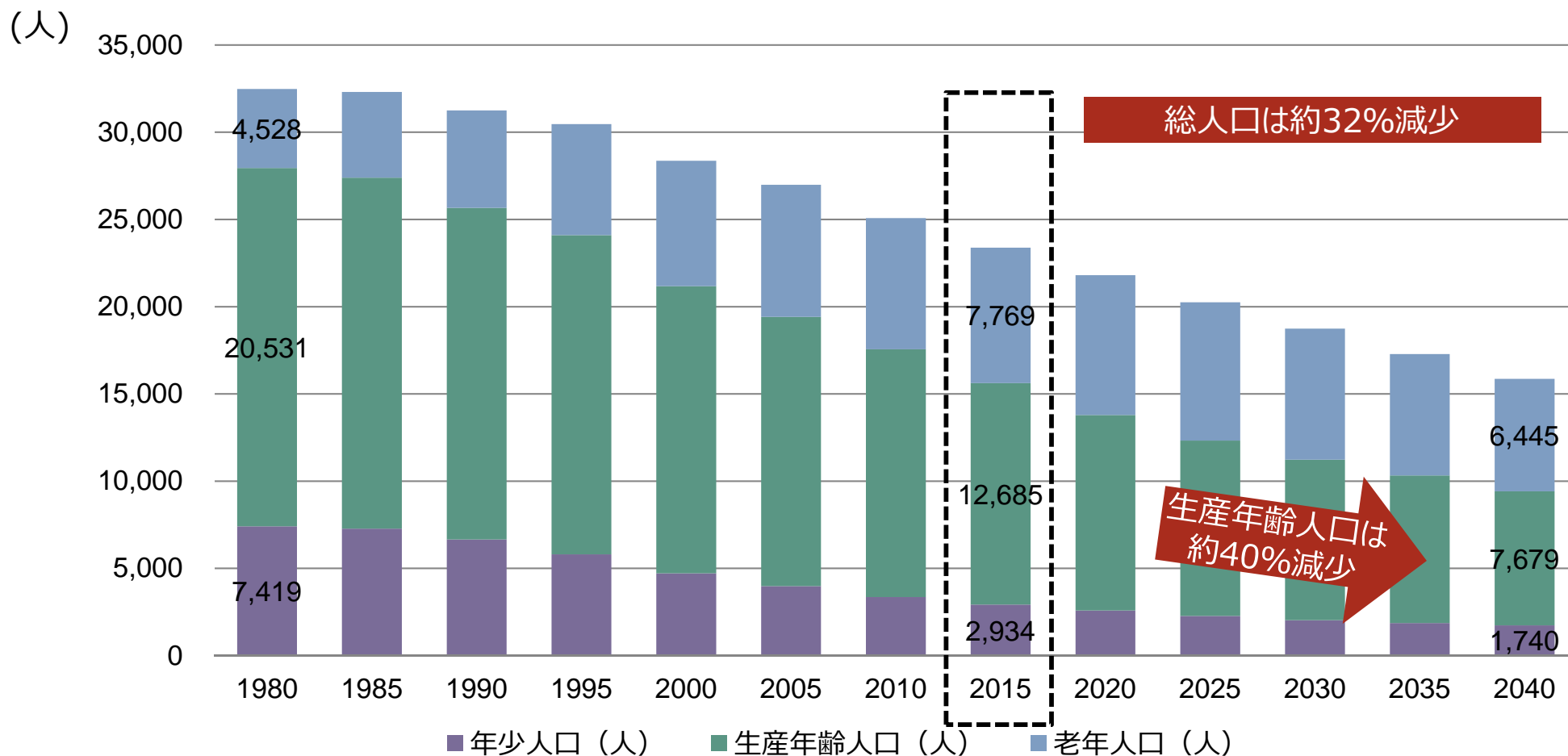


出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計)」をもとに作成

松浦市の人口動向

松浦市の人口も平戸市と同様に急速な人口減少が進む

平戸市同様、毎年人口減少が進んでいる。
2040年には2015年よりも、総人口は約32%、生産年齢人口は約40%減少。

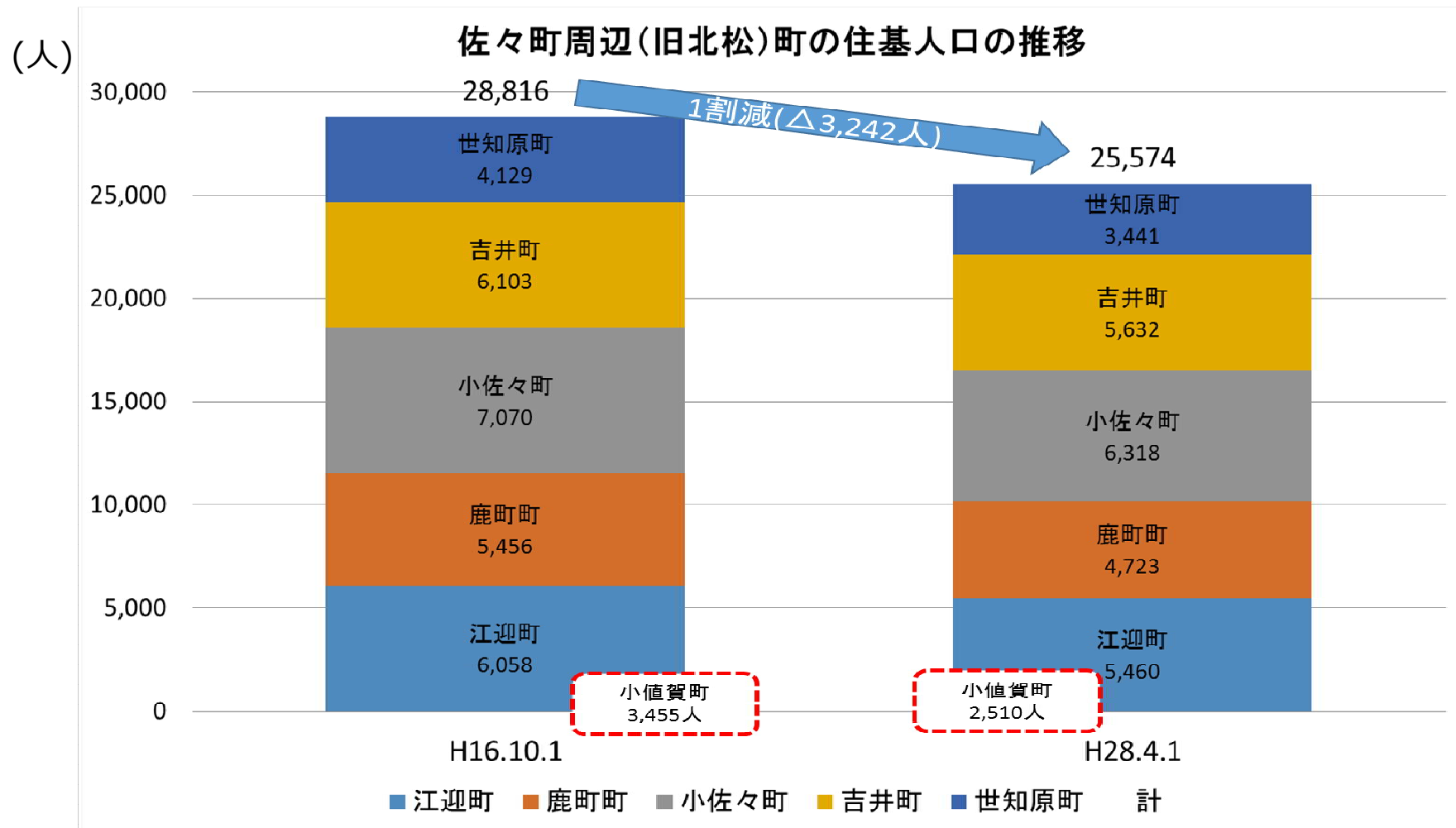


出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計)」をもとに作成

周辺自治体の人口動向

他の周辺自治体も人口減少が進行

世知原町、吉井町、小佐々町、鹿町町、江迎町、小値賀町のいずれの自治体においても平成16年から28年にかけて、全体で1割近く人口が減少した。



出所) 各市町村の住民基本台帳をもとに作成

佐々町の現状・人口動態

居住の観点からみた佐々町と周辺自治体の関係

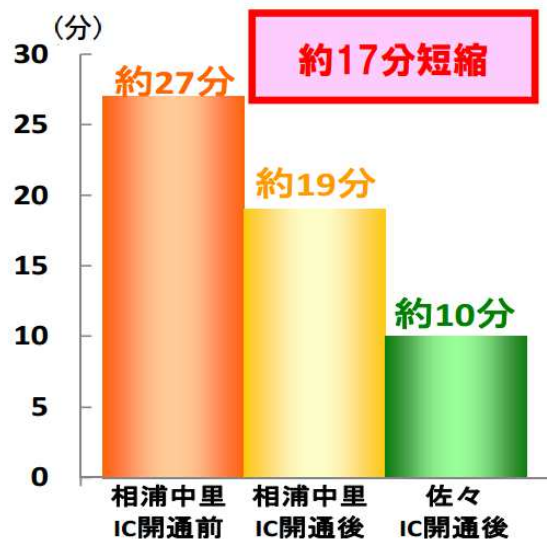
道路網の整備等により、他市町村へのアクセスが改善し、住みやすい環境が整ってきた

佐世保市との間は、佐々佐世保道路や松浦鉄道西九州線が通っており、アクセスしやすい。佐々－佐世保の所要時間は約10分。H21年から比べると約17分短縮。

佐々IC周辺の開発が進み、商店、病院、公共施設の充実したことにより、住みやすい環境が整っている。



▲位置図



▲佐々町～佐世保市間の所要時間変化

※相浦中里IC開通前：民間プローブデータ (H21. 3. 1～H22. 3. 19)
 相浦中里IC開通後：民間プローブデータ (H22. 3. 20～H23. 5. 31)
 佐々IC開通後：H23. 10. 19走行調査結果



▲佐々IC周辺の施設立地変化

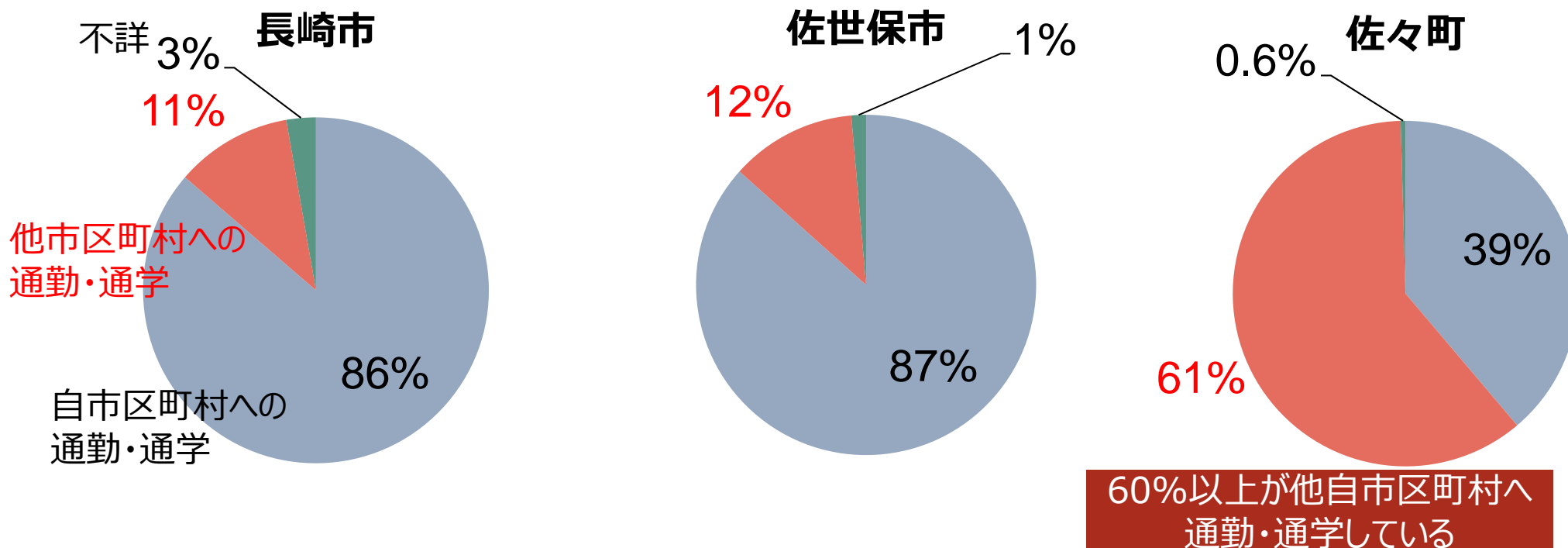
居住の観点からみた佐々町と周辺自治体の関係

佐世保市等のベッドタウンとして成り立っている

15歳以上の就業者及び通学者の通勤・通学先を見ると、佐々町は60%以上が他自治体へ通勤・通学している。

長崎市や佐世保市と比較しても、その割合は高く、ベッドタウンとしての特性が伺える。

15歳以上の就業者及び通学者の通勤・通学先



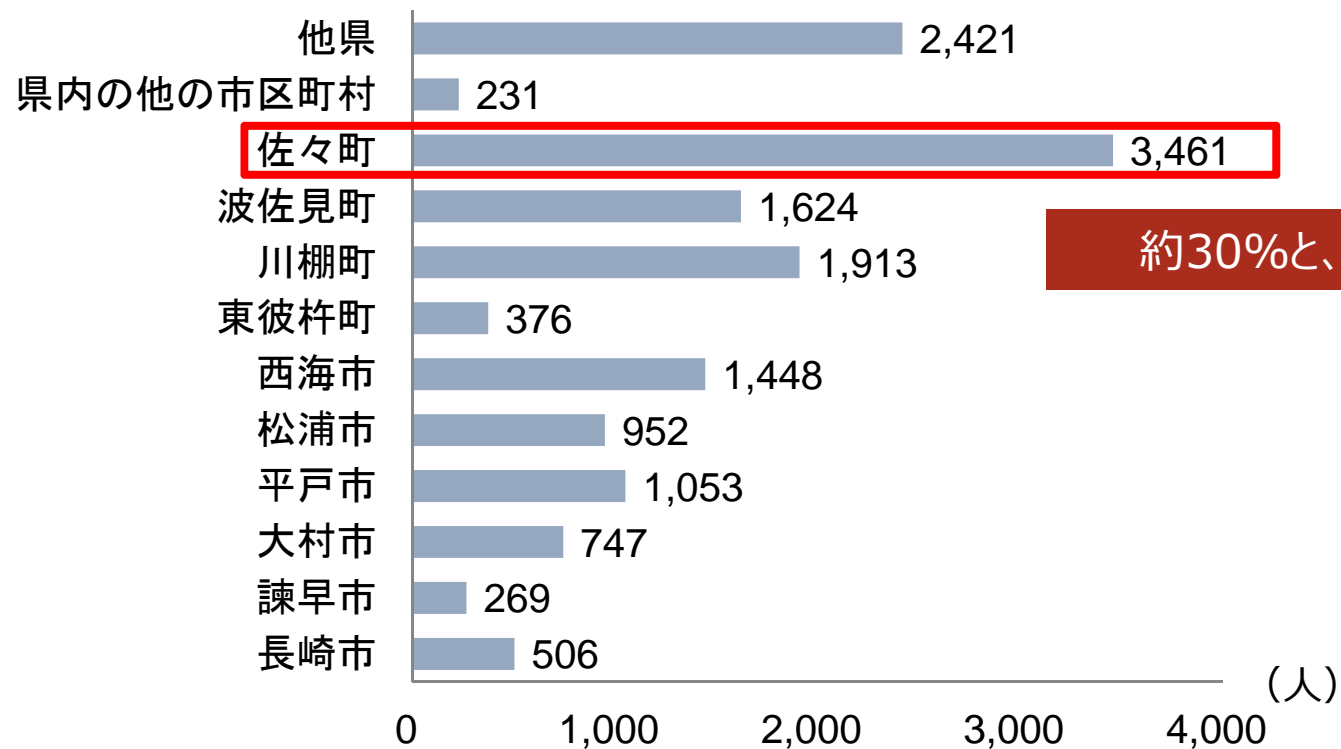
居住の観点からみた佐々町と周辺自治体の関係

佐世保市等のベッドタウンとして成り立っている

佐世保市への通勤・通学者数を見ると、佐々町からの通勤・通学者が最も多く、佐世保市のベッドタウンであることがわかる。

その佐世保市が急速に人口減少する見込み。佐世保市の人口ダム機能は失われる。

佐世保市への通勤・通学者数



約30%と、最も多い

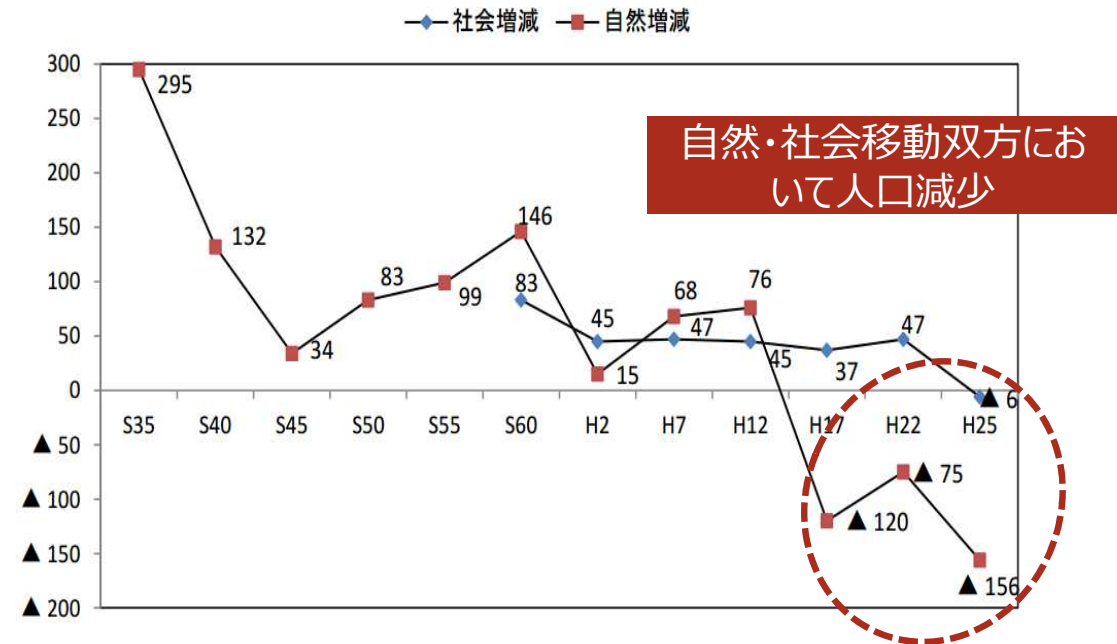
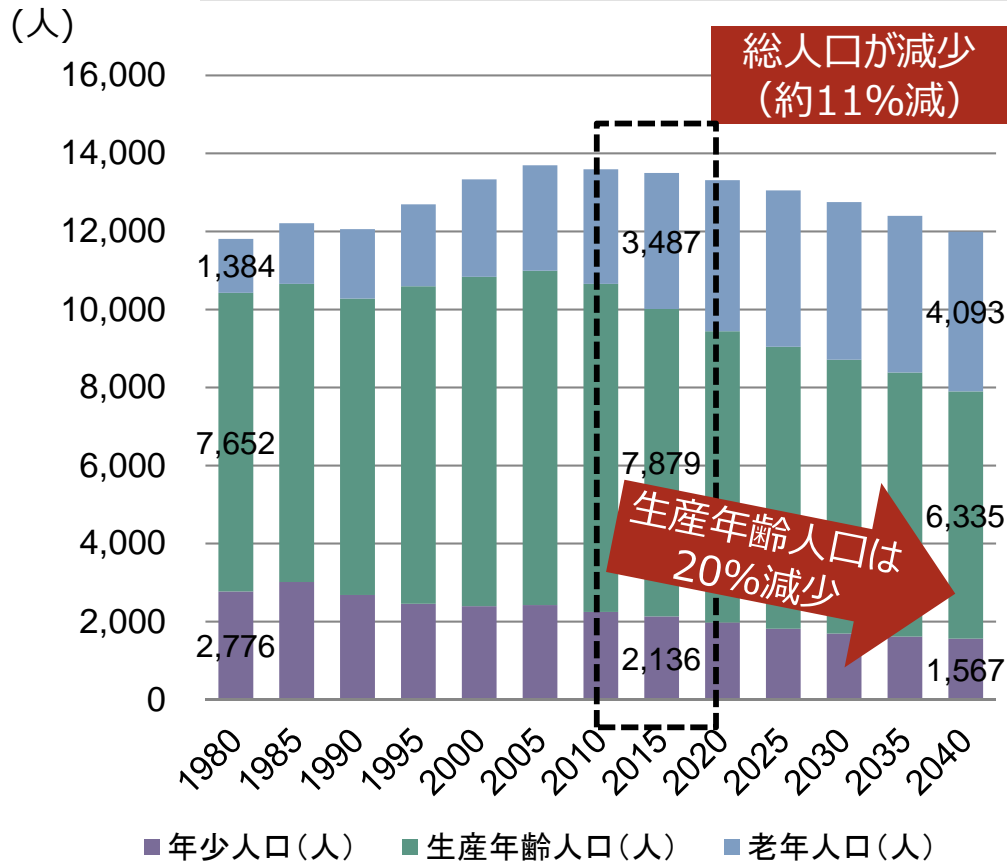
出所) 平成22年国勢調査をもとに作成

佐々町の人口動向

長与市や時津市と同様に将来、人口減少が進む

県内の他自治体と同様、人口は減少する見込み。
2040年にかけて、総人口は約11%、生産年齢人口は約20%減少。
自然・社会移動の双方において人口減少に向かっている。

長崎市ベッドタウンとして人口増加に成功した長与町や時津町の人口減少も考慮すると、佐々町も現状のままでは人口減少は食い止められない。

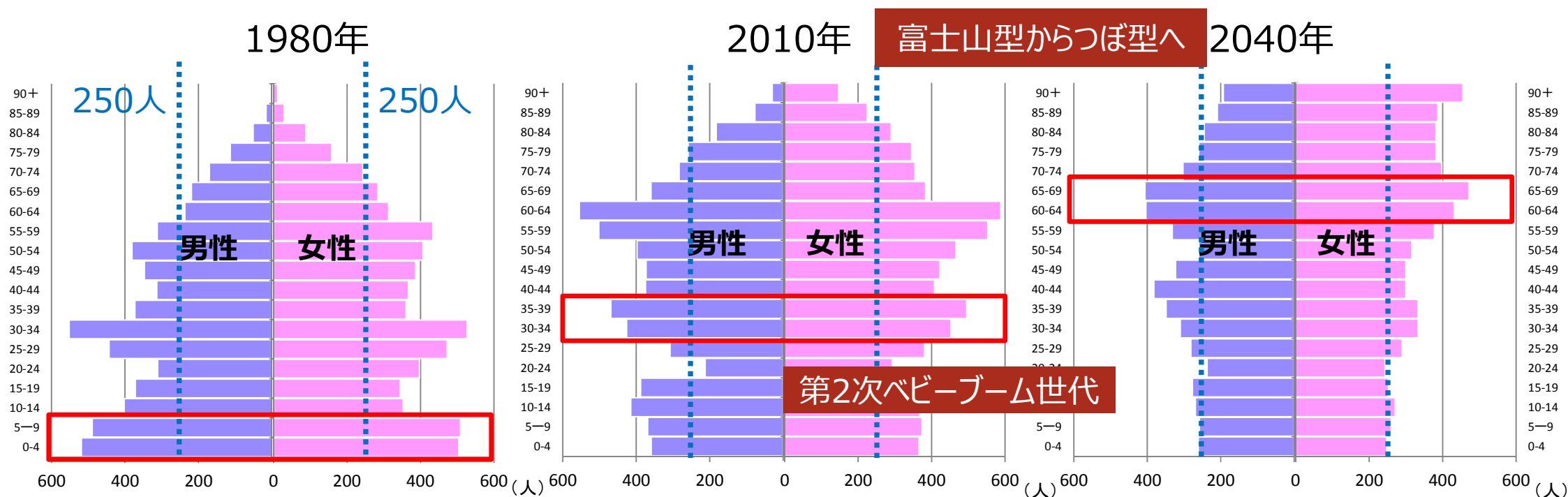


佐々町の人口ピラミッド

少子化・高齢化が進む。若年層を中心に同性・同年代の人口が急速に減少する。

人口構造は「富士山型」から「つぼ型」に変化し、少子化・高齢化が進む。

人口ピラミッド図内の破線は250人を示すが、若年層を中心に、同性・同年齢階級（5歳階級別）の人口が急速に減少することがわかる。



出所) 国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月集計)」より作成

佐々町「生涯活躍のまち」実現に向けて

近郊都市からの人口獲得が必要

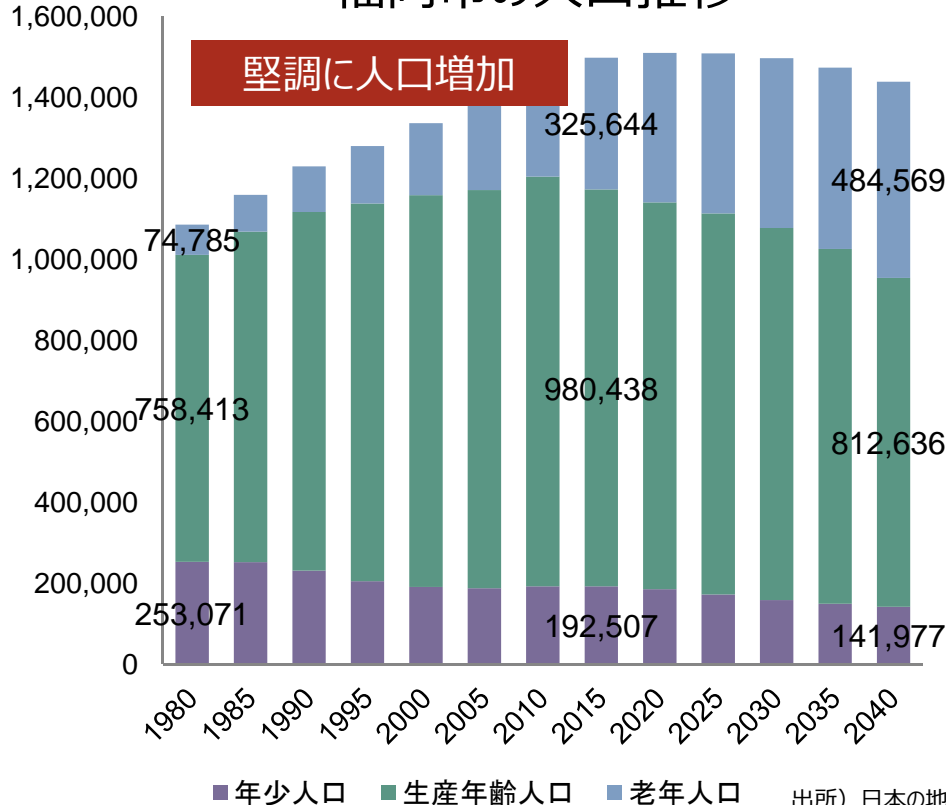
佐々は福岡の郊外

福岡市も人口減少はするものの、長崎市や佐世保市と比較すると緩やか。
2040年においても生産年齢人口は80万人以上。

西九州自動車道の整備が進めば、福岡市のアクセス時間は2.5時間から1.5時間に短縮される。福岡空港や博多・天神の利便性から、福岡市の郊外として位置づけが可能となる。

(人)

福岡市の人口推移



西九州自動車道整備状況



「生涯活躍のまち(CCRC)」とは

CCRC : Continuing Care Retirement Community

「①高齢者の地方移住の希望実現」「②地方へのひとの流れの推進」「③東京圏の高齢化問題への対応」を意義として、国も進める取組み。

国の検討状況 ～「生涯活躍のまち」構想(最終報告)～
H27.12.11 日本版CCRC構想有識者会議

1 「生涯活躍のまち」構想とは:本構想の意義

①高齢者の地方移住の希望実現 ②地方へのひとの流れの推進 ③東京圏の高齢化問題への対応

2 構想の基本コンセプト

(1)従来の高齢者施設との基本的な違い

- ・健康時から選択(入居)
- ・地域の仕事や社会活動、生涯学習などの活動に積極的に参加(支え手としての役割も)
- ・地域に溶け込んで、多世代と協働

(2)7つの基本コンセプト

- ①東京圏をはじめ地域の高齢者の希望に応じた、地方や「まちなか居住」への移住の支援
- ②「健康でアクティブな生活」の実現
- ③地域社会(多世代)との協働
- ④「継続的なケア」の確保
- ⑤IT活用などによる効率的なサービス提供
- ⑥居住者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営
- ⑦構想の実現に向けた多様な支援

4 制度化の方向性

- ・制度化する際の対象
- ・国、地方公共団体、事業主体の役割分担と連携

5 構想実現に向けた支援

3 構想の具体像

①入居者

【共通必須項目】

- ・入居希望の意思確認
- ・入居者の健康状態
- ・入居者の年齢(40歳代も可)

【選択項目】

- ・住み替え形態
大都市から移住or近隣転居
- ・入居者の所得
- ・入居者の属性

③サービスの提供

【共通必須項目】

- ・移住希望者への支援
- ・「健康でアクティブな生活」支援するプログラムの提供
- ・「継続的なケア」の提供

【選択項目】

- ・住み替えサービス
- ・就労・社会参加支援サービス等
- ・その他

②立地・居住環境

【共通必須項目】

- ・地域社会(多世代)との交流・協働
- ・自立した生活できる居住空間

・対象地域の入居者の生活等の全般を管理・調整する「運営推進機能」の整備

【選択項目】

- ・立地
まちなか型or田園居住型
- ・地域的広がり
タウン型orエリア型
- ・地域資源の活用
- ・地域包括ケアとの連携

④事業運営

【共通必須項目】

- ・居住者の事業への参画
- ・情報の公開

【選択項目】

- ・多様な主体による事業実施
- ・持続可能な事業運営
- ・コミュニティにおける適切な人口構成の維持

米国での取り組み事例 ～ダートマス大学CCRC～

項目	内容
開設年次	1991年
建築規模	敷地面積26万m ²
併設施設	ダートマス大学病院
料金 (入居時・月額)	入居一時金：11万～37万ドル 月額：2,120～3,896ドル
料金（学費）	生涯学習プログラム：年間100ドル
事業主体	ケンダル社
特徴	単に引退した高齢者が集うコミュニティではなく、医療施設や大学連携等で、高齢者の安心と生きがいを創出したリタイアメントコミュニティ。 大学連携による生涯学習が盛んなCCRC。日々の生きがい創出や、多世代交流機会にもなっている。



出所) KENDAL at Hanover <http://kah.kendal.org/life-style/>

第2回都市部の高齢化対策に関する検討会資料「プラチナ社会研究会の取り組み」

http://www.mhlw.go.jp/file.jsp?id=146236&name=2r98520000034a1c_1.pdf をもとに作成 c

米国での取り組み事例 ～ダートマス大学CCRC～



施設全体の様子



学生のキャリアアドバイザーやレポートの支援



多世代との交流も活発



近隣の子供たちに読み聞かせ

出所) KENDAL at Hanover <http://kah.kendal.org/life-style/>
第2回都市部の高齢化対策に関する検討会資料「プラチナ社会研究会の取り組み」
http://www.mhlw.go.jp/file.jsp?id=146236&name=2r98520000034a1c_1.pdf
をもとに作成

米国での取り組み事例 ～カリフォルニア大学デービス校CCRC～

項目	内容
開設年次	2000年
建築規模	敷地面積4万m ²
併設施設	アートスタジオ、講堂、カーシェア、ビリヤード室、ダイニング、フィットネス&アクアティクスセンター、図書館など
料金 (入居時・月額)	入居一時金：10万ドル～ 月額：住居タイプ、サービスによる
料金（学費）	生涯学習プログラム：不明
事業主体	Pacific Retirement Services, Inc.
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・大学だけでなく、都心とのアクセスを重視したCCRC。市街地や近隣の大都市に出かけ、知的体験や新しい発見をすることができる。 ・市街地や大学まで徒歩もしくは自転車でアクセスできる。また、サンフランシスコまで一時間（長距離鉄道）、サクラメント国際空港まで30分と、広域的なアクセスも良い。 ・デービス市は人口65,000人ほどの小さな都市で、自然が多い。また、人口当たり自転車数が全米で最も多い都市として知られており、自転車交通に優しい都市である。 ・住民間で多様なクラブを設立して活動している（ゴルフ、テニス、ビリヤード、散歩、詩、読書など）。住民の活動によってイベントや授業が創設されていく。施設内だけでなく、地域の公園などを利用して活動を行う。

出所) University Retirement Community at Davisサイト <http://www.retirement.org/davis/>
 University Retirement Community at Davisパンフレット <http://www.retirement.org/davis/files/2011/11/brochure.pdf>
 をもとに作成

米国での取り組み事例 ～カリフォルニア大学デービス校CCRC～



施設の様子



慈善福祉団体の日に合わせて、
病院患者のために縫い物を作成



住民参加のコミュニティを考える
ワークショップ

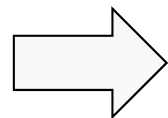
出所) University Retirement Community at Davisサイト <http://www.retirement.org/davis/>
University Retirement Community at Davis/パンフレット<http://www.retirement.org/davis/files/2011/11/brochure.pdf>
University Retirement Community at Davis(Facebook)<https://www.facebook.com/330136638749/posts/10154496958403750>
をもとに作成

米国での取り組み事例 ～メリルハースト大学CCRC～

項目	内容
開設年次	2001年
建築規模	敷地面積7.7万m ²
併設施設	大学、図書館、工作室、ラウンジ、講堂、銀行、庭園・菜園など
料金 (入居時・月額)	入居一時金および月額
料金 (学費)	20%以下の料金の受講可能
事業主体	Mary's Woods
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教系団体によって創立されたCCRC。特別料金で大学の授業を受けることができる。 ・森や川といった自然環境の中で生活する。湖にも近く、ポートランドまで出かけることもできる。 ・住民による講義や、菜園・園芸、ツアー、ボランティア活動などが盛ん。 ・施設内では芸術や運動のレッスンなどを開催している。湖や近隣都市への旅行、森の中でのコンサートなどのイベントも企画される。また、火曜日の夜にはモーニングコーヒータイムを設け、入居者間のコミュニケーションを図る。

・キリスト教系団体
The Sisters of the Holy
Names of Jesus and Mary

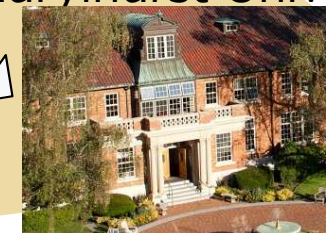
創立・運営



Mary's Wood CCRC



Marylhurst University



出所) Mary's Woodsサイト <http://maryswoods.org/>
Mary's Woods at Marylhurst (facebook)
<https://www.facebook.com/Marys-Woods-at-Marylhurst-210221719007124>をもとに作成

米国での取り組み事例 ～メリルハースト大学CCRC～



施設の様子



国や世代を超えた交流



地域の子どもに国語を教える入居者たち

出所) Mary's Woodsサイト <http://maryswoods.org/>
Mary's Woods at Marylhurst (facebook)
<https://www.facebook.com/Marys-Woods-at-Marylhurst-210221719007124>
をもとに作成

米国での取り組み

全米で約2千カ所、居住者約70万人、約3兆円の市場規模を誇る。

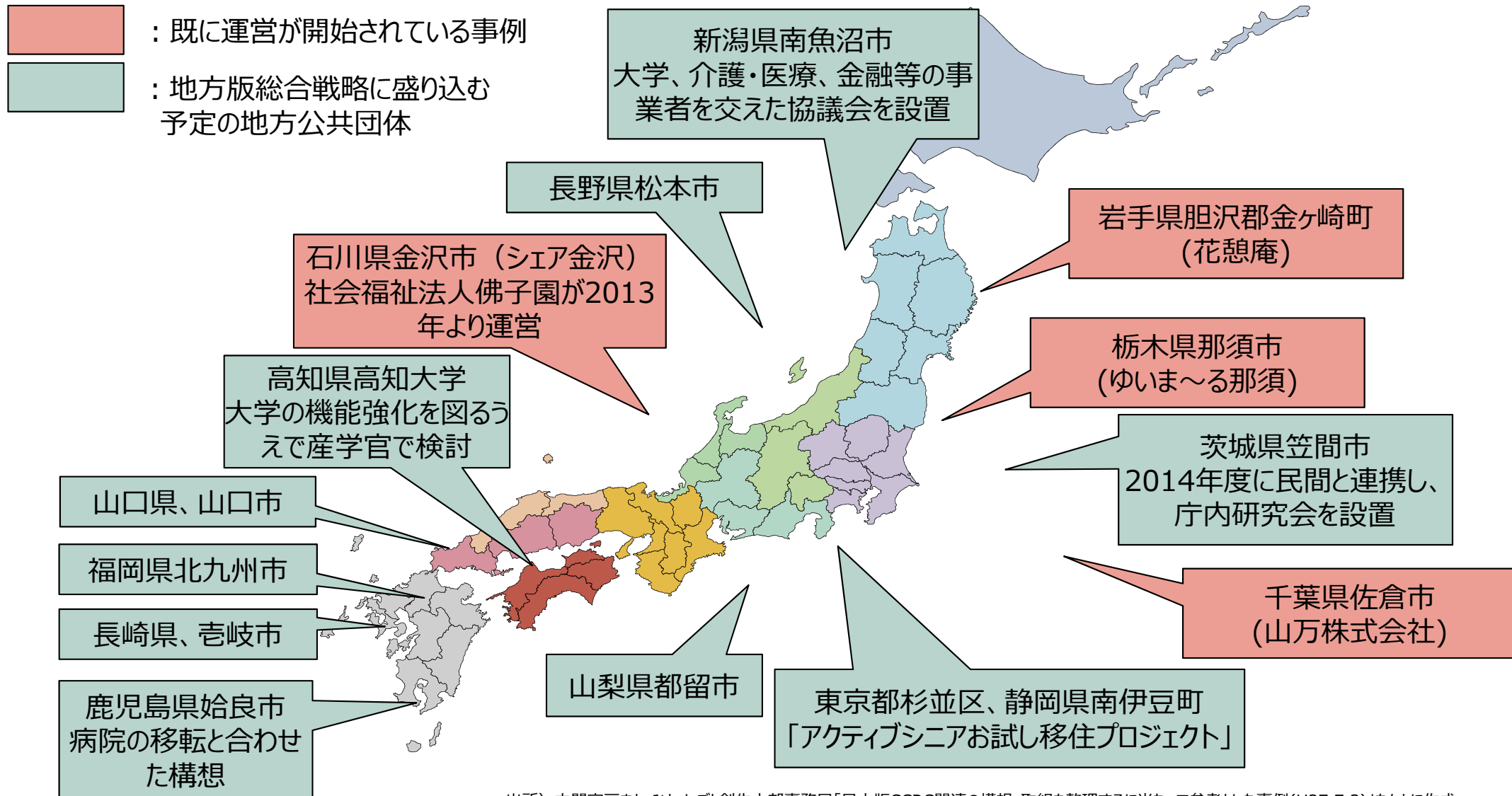
大学との連携型が中心であり、高齢者のこれまでの経験や知見に、新たな学びを加えることで地域に貢献する。

生涯学習をキーワードに、多世代間の「学び」の循環を地域に作りだす。これにより、授業料を支払う顧客の幅を広げることができる。

高齢者にサービスを提供するものではなく、地域経済の一員としての居住者を獲得するもの。

他自治体の「生涯活躍のまち」実現に向けた取り組み事例

日本全国の自治体で取り組みや検討が始まっている。



出所) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「日本版CCRC関連の構想・取組を整理するに当たって参考とした事例(H27.7.3)」をもとに作成

佐々町「生涯活躍のまち」とは

若年・ファミリー層からアクティブシニア層まで幅広く、近隣転居・大都市からの移住を促進

1. 居住のあり方とターゲット層

～田園地域型・タウン型 近隣転居を中心に、大都市からの移住も可～

主たるターゲット層

- ①若年・ファミリー層：東北出身者
- ②アクティブシニア層：就農意欲or本格農業に興味ある人
- ③シニア含むファミリー層：佐々町や東北に縁がある、お試し滞在などで気に入った人

⇒特に地域活動のリーダーとなり得る人材を歓迎、お試し居住体験（下記）で前向きな反応の人を（優先的に）お誘いする

居住のあり方

- ①若年・ファミリー層向け：農村的地域に、本格農地付の戸建て住宅を提供⇒健康づくりの取り組みとセットでアピール（佐世保市への通勤者世帯には、別途住宅供給）
- ②アクティブシニア層向け：既存住宅地の中に、庭付き戸建て住宅を提供
- ③シニア・ファミリー向け住宅：ファミリー型サ高住⇒閉鎖的集合住宅としない

2. アクティビティ

- A 文化活動、スポーツ活動
【主に①若年・ファミリー層向け】
町の文化祭などへの活動参加
釣りなどのアウトドアレジャー
テニス等のスポーツ活動
- B 土いじり、自宅で本格農業
【主に②アクティブシニア層向け】
自家消費のための農業
クラインガルテン的な空間確保
いわゆる「家庭菜園」より本格的な農業体験が可能
- C 健康づくり活動
【主に③シニア含むファミリー層向け】
外へ出て体を動かす、住民と交流する
- D 「食」へのこだわり
【主に①若年・ファミリー層向け】
食育や食の安全性にこだわった活動を展開（アレルギー対策など）

3. 定住促進の仕掛け

- A 佐々町を知るツアー（短期）
公共施設や買物・医療等の施設見学
町の暮らしや特徴について、キーパーソンからの情報提供と交流
- B お試し居住体験（長期滞在の実施）
①若年・ファミリー層向け：子育て支援や食育などの活動に参加
②アクティブシニア層向け：農業体験施設で土いじり
③シニア含むファミリー層向け：地域包括ケアの体験、地元高齢者の体を動かす活動に参加
- C 地域住民ボランティアによる転入相談
町のキーパーソンからアドバイス、「顔の見える関係」の素晴らしさを知ってもらう
- D 専門誌・専門サイトへの情報発信
「佐々町暮らし」とキーパーソンの紹介

4. 仕事づくり （就農、創業）

- A 就農支援：援農隊の活動拡大
農作業研修、農地確保、
生產品目への助言、販売支援
- B 就業支援
例）周辺の立地企業（工場）への就業斡旋
- C 創業支援
チャレンジショップの提供、店舗開業に係る助成金など

佐々町「生涯活躍のまち」とは

「タウン型」、「エリア型」のCCRCが中心

大規模な施設を建設することが目的ではない。
既存の町の中に住むことが中心。空き家や公営住宅の活用も検討。

地域による介護や、コミュニティ活動を通して、移住者を受け入れる。

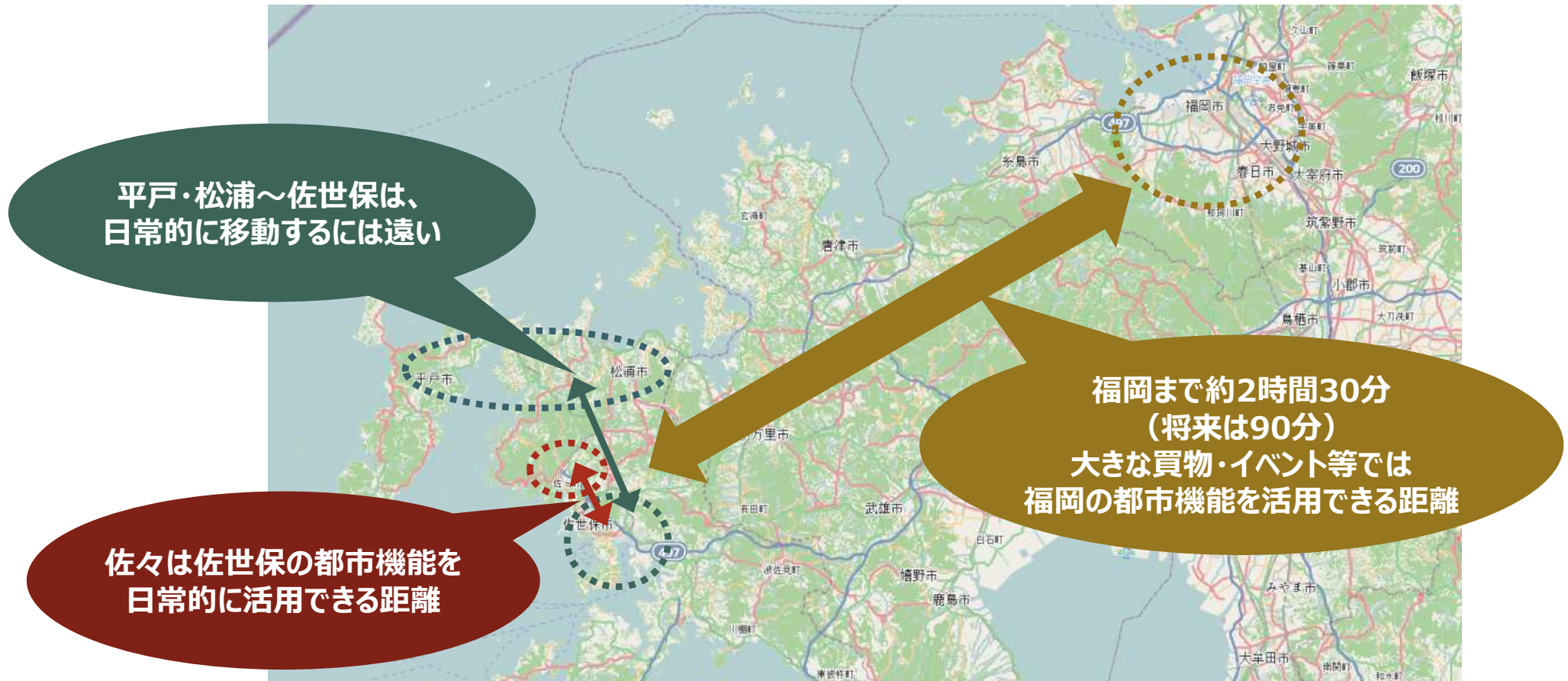
コンセプト	ターゲット	立地、特徴、独自性・先駆性
【タウン型】 コンパクトシティ・住み替え型全員活躍地域	周辺自治体に居住する当該市町居住単身高齢者等	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地内又はその周辺で、既存の公営住宅・公共施設・空き家などのリノベーションにより低廉な賃貸住宅を供給 活発なコミュニティ活動、多世代交流、大学連携 周辺福祉施設等との交流を通じて、全員が役割を持って社会に貢献（「全員活躍地域」）。
【エリア型】 地域資源・農業・大学連携型コミュニティ	大都市圏や都市部（県庁所在地クラス）の居住高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や地域資源活用型のコミュニティを形成。 近隣市の大学と連携により科学的な知見を実践し健康増進を図る。また、多世代交流の促進により安心感や充実感のある生活を実現。
【施設型】 近隣市移住者コミュニティ	アッパーミドル層の近隣都市の地元高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 駅に近接した利便性の高い立地での複合施設（低層：健康、医療、介護；中高層：賃貸住宅）としてのCCRC 隣接する大都市の病院（高次医療）への通院や近隣都市圏の友人との懇親（またはビジネスを重視）

佐々町「生涯活躍のまち」とは

Uターン、Jターンをターゲット

平戸・松浦・北松地域出身だが、「平戸や松浦は、病院や職場が遠すぎる」という方。
→佐々は佐世保の都市機能を、日常的に活用できる。

九州出身で、九州に帰りたい方。九州が好きの方。
→福岡の郊外として、福岡の利便性 + 自然の豊かさ等のバランスで、佐々を選ばれる町へ。



佐々には「生涯活躍」の土台がある

佐々川流域の歴史・文化・自然・産業

佐々には、町の行政界を越えて、佐々川流域の歴史・文化・自然・農業など、学ぶ対象がある。移住者のこれまでの知見・経験に学びを加えることで、地域に貢献することができる。

佐々の豊かさを調べなおし、学びなおし、発信することが生涯活躍のまちの実現に繋がる。



CC-BY LocalWiki



CC-BY LocalWiki

「佐々さるく」の活動
歴史の遺構・遺跡を自らの目で見て感じて、いにしへの佐々の人々の思いを、感じ取る

佐々川の水で獲れた米を佐々川の水で炊く飲食店ブランドとなり佐世保や福岡、東京から客が来る。
佐々川的环境・生態系の学びを加えることで、農業の振興、ブランド向上を実現できる

佐々には「生涯活躍」の土台がある

「自立」を実現する介護、自立した高齢者による要介護者への支援の構造

佐々では、住民による介護予防を通して、介護されていた側が「役割」があることで元気になり、支援する側に回っている。

誰もが貢献できる構造が、要介護者の増加を防ぎ、保険料を適切に使うこと・費用を膨らませないことに繋がっている。多様化するニーズに対応することも可能になる。

住民主体で介護予防活動を行うことが、自然と多世代交流に繋がっている。

ちょっとした生活支援があれば、まだまだ自宅での生活ができる人が対象

介護予防ボランティアが訪問

しずらくなったことを一緒に行う



新しい出会いが
はじまる

新しい役割が
生まれる

地域の人が見えてくる

地域の声が聞こ
えてくる

介護を受けていた方が、地域包括ケアセンターで、サポートする側の活動を始められてすぐ「お茶を入れて」と強い口調で言われたとき、

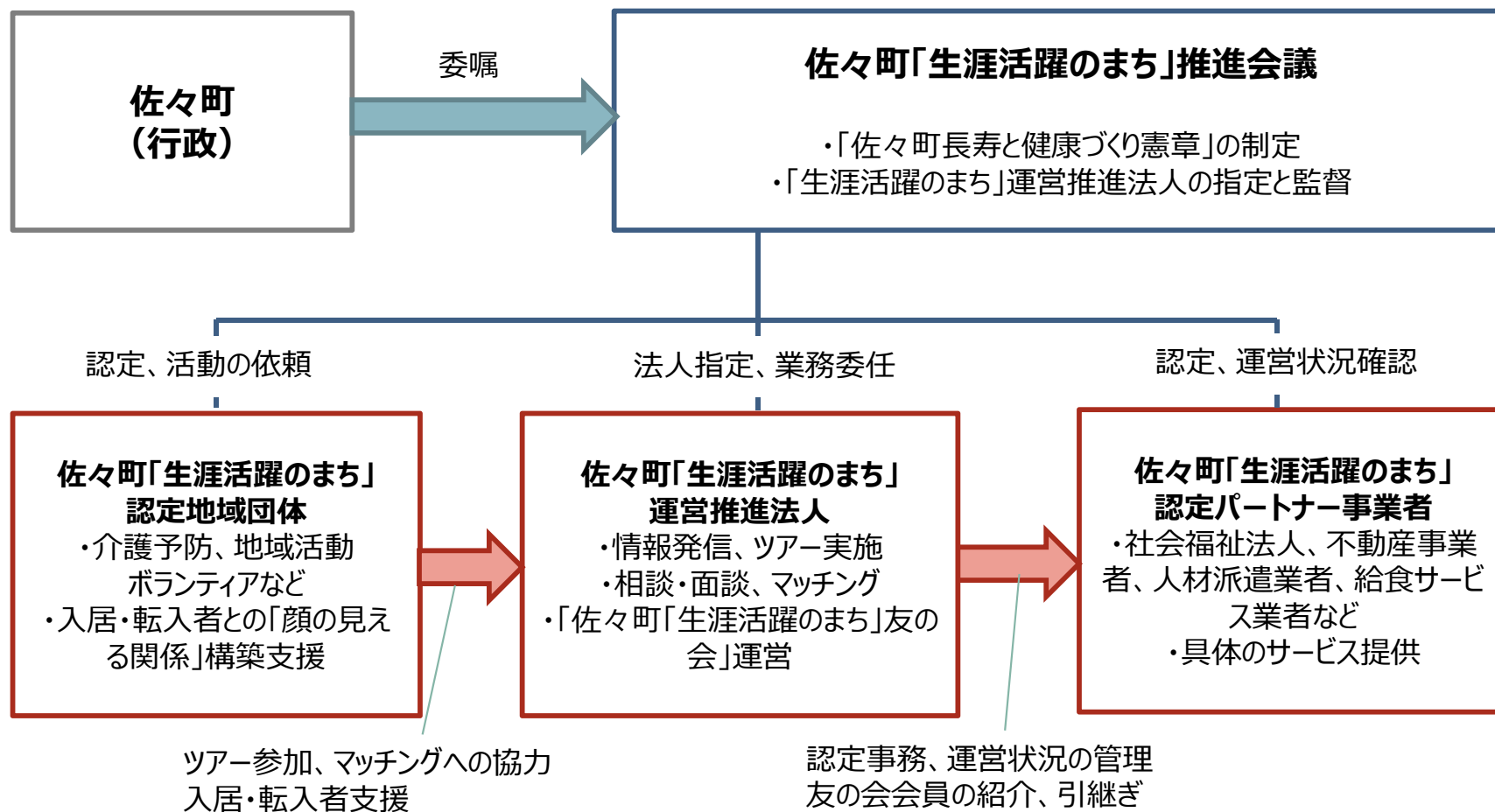
落ち込んでしまわれると思ったら「私、ものを頼まれた。私、誰かの役に立てる。ここにいていいのね」と受けとめている

推進体制

佐々町「生涯活躍のまち」推進会議を中心に議論

「運営推進法人」のあり方など、国の基本構想や手引きなども踏まえて、体制の検討が必要。

※下図はあくまでイメージ



出所) 平成27年度佐々町「生涯活躍のまち」構想調査結果より作成